

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500296		
法人名	有限会社 プライムタイム		
事業所名(ユニット名)	グループホームひまわり		
所在地	和歌山県有田市箕島22-1		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosv0cd=3071500296-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、有田市の中心部に位置し、施設の窓からは、蜜柑山・有田川が一望できます。又 近隣の小学校からは、毎日子供たちの元気な声が聞こえ、小学校の行事には、(運動会・音楽会等)にも招待して頂いたり、小学校の子供たちに、認知症の事や、高齢者さんってどんな人？どんなことに困っているか・・・を一緒に考えていただきながら認知症高齢者さんに対しての理解を深めていただく活動を社協さんと一緒に行っています。又地域の方々との交流の場として、「ひまわりカフェ」を毎月開催しています。利用者様に於いては、今までできてきたであろう梅干し作り・なれずし作り・金山寺みそ作りなど利用者様に教えていただきながら作っています。音楽療法・ラクターヨガ・タクティールケアなどを導入し、認知機能の低下を楽しみながら出来る様に支援しています。食事についても季節感を感じていただける様利用者様と共に工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの理念である「和んで 笑って つながって」を大切に、入居者が日々を気持ちよく過ごしてもらうために、地域との交流に力を入れ、また、入居者の好むものや昔していた事を続けていく様にしている。その他の活動で特徴的なものとして、オイルマッサージで職員が入居者とゆっくり話を出来る時間を作っている。あるいは持っている力を引き出す工夫の一つとして、文化祭に出すマンダラぬり絵を自分で選びテーマも自分で考えてもらっている。なお、職員の離職率は低く、障害者も雇用するなど働きやすい職場環境も意識した経営を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に理念を掲示し職員は常に理念に基づいた事業所であるように心がけている。毎月のカンファレンスや年1回の管理者との面談時にも理念の浸透や理解が出来る様に、職員のスキルに合わせた指導を心がけている。	理念が現場で実現され、入居者一人ひとりの状況に沿ったケアに繋がる様に意識し、カンファレンスや日々の業務を取組んでいる。会議や協議の中で管理者は職員にアドバイスをしながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会にも参加、清掃活動にも参加し、小学校・幼稚園・学童保育との交流も図り、利用者様が地域の方々と日常的に交流が図れる場として、「ひまわりカフェ」を毎月開催しています。	地域との交流を大切にし、職員は地域の一人として自治会活動等に参加し、また事業所独自のカフェや文化祭等の行事を行っている。小学校では職員による出前授業、小学生によるサマーボランティア等交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉ネットワーク会議や在宅医療サポーターと仲間たちの会・有田市生活支援体制整備協議体の委員として、又認知症の理解を深めていただく為小学校等でのお話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて、話し合った事柄より、小学校・幼稚園との交流会や雑巾の寄贈・認知症カフェ等を取り組み又 災害時等近隣の方との協力体制についても話し合いを持つことが出来ました。	関係者が参加しやすい様に、日曜日と夜以外の日程で開催している。毎回テーマを決めて話し合い、広く意見を聞いている。「次会議までの継続課題」等問題を明確にし、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、事ある毎に相談や報告を密に取り協力関係の構築に努めています。	市とは入居者の空き情報や最近では生活保護を受けている入居者の相談が多くなっている。やりとりは記録に残している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場に於いて随時事例検討や勉強会を行いマニュアルの作成・理解を深める事に努め、常に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。又職員間の相互確認を強めながら、近隣の方々の理解協力を得られるように働きかけています。	職員は入居者の病気の特性を勉強し、医師と相談し不要な薬は出来るだけ使わないようにしている。スピーチロックにならない様に笑顔で言葉をかけ、職員同士の気づきを大切にし何かあれば日々解決する様にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて定期的に、勉強会を行い、啓発・学ぶ機会を持ち、虐待の内容に職員間でも常に注意出来る環境を構築しています。講師については外部から招く事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修への参加にて、学ぶ機会を持っている。現在 成年後見人制度を利用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者様や家族の不安や疑問点を訪ね、グループホームに於いて、出来る事出来ない事や、希望される生活を支援していく上でのリスク等の説明を行い、十分に理解して頂けた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置。運営推進会議への本人・家族様の参加を行っています。又 計画作成担当者・管理者が家族様との連携記録を取り、運営に行かしています。	家族の意見でフリーマーケットを年2回開催している。カフェ、夏祭りなどの行事への参加を呼び掛けているが、参加出来る家族は減っている。苦情・要望の対応体制としても丁寧に取組むことを基本に、家族の方とも話し合い信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス・面談以外に、日頃より業務連絡報告等連携を図り、意見・提案について検討を行いサービスの向上に努めています。毎日行う事で、敏速な対応が可能にしています。	職員は外部評価の自己評価表を使い業務を振り返り、管理者は日頃から職員の話聞き、問題点があれば、解消してケアに活かせる様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績に対しての、昇給や業務延長への配慮を行なっています。年1回の面談・随時の相談・職務環境への配慮を行ない、職員が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・現任研修や外部研修を受ける機会を持てる様にしています。又 資格習得も積極的に行えるように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有田市地域の福祉介護事業所でネットワーク会議を設立参加し、意見交換等を行い、地域での活動等について話し合っています。又 管理者間での意見交流会等も持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活状況・病歴・生活歴の把握に努め、十分なアセスメントを行い、本人・家族の想いに耳を傾けながら安心して頂ける様に努力しています。又 主治医のご意見も聞かせていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内又は、自宅等に訪問させて頂き面談を行い家族・本人の困っている事や不安な事・想い・要望など十分に聴く機会を作り、信頼関係の構築を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族との面談にて相談を受けお話を聞く事により、ご本人や家族の想い・状況・ニーズにより、他のサービスの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴・価値観・想いを理解し、利用者としてのくくりで接するのではなく、尊敬の気持ちを持って、共に暮らし、喜怒哀楽を共にし、家庭的な雰囲気と一緒に築いていけるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状報告をまめに行い(月次報告書等)家族様とも密に連絡・相談を行いながら支援しています。又 家族様が常時訪問しやすい雰囲気作り、良い関係を築くように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にされてきた方との外出や外泊にも支援、外出時の様子等についても記録して頂き職員間で共有しています。外出の機会の少ない利用者は馴染みの人や場を把握し職員と一緒に出掛け支援しています。	家族との墓参り、外食や飲酒も継続して行える様に支援している。年賀状の作成や、知人への電話連絡など、その都度入居者に希望を聞き支援する様にしている。また、近くの小学校、幼稚園、保育所とは毎年定期的に交流することで馴染みの関係ができてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	平素より利用者様の声に耳を傾け個々に知り得た情報をカンファレンス事に検討、対応についても共有しています。お声掛けの工夫により、楽しく過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所された後も関係性を断ち切るのではなく、必要に応じて相談支援しています。又その家族様にも、引き続き運営推進会議に参加をして頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の想いに、耳を傾けながら、利用者お一人お一人のこれまでの生活歴やこれからの施設での生活への思いや意向を把握し、センター方式を活用する等により職員間での共有を図っている。	入居者の支援を検討するにあたってアセスメントを丁寧に行い、なるべく本人の思いに寄り沿った協議を重ねている。入居者の表情、単語、しぐさ、声のトーンなど言葉の裏には何が有るのかくみ取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様よりお話を聞かせて頂き、又以前の担当ケアマネから情報を頂くなど連携を行い、入居までの暮らしや生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントより計画書3表に表し、日々個々の介護日誌・支援経過に記録し申し送ることで職員全員が把握できるようにしている。利用者の状態によりケース会議を開催し時には担当医と相談を交え状況の把握・ケアについて検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は「利用者の出来る力」に視点を定め、本人・家族等・担当医・看護師等関係者と話し合い、職員間での検討を経て作成している。各担当職員によるモニタリングを通じて評価をしながら必要に応じて修正を行い現状に即した計画書作成に努めている。	介護計画のモニタリングは担当者を決めて行い、家族の思いと本人の思いの共通点と違いも受け止めながら現状確認している。計画作成のアセスメントを大切に、関係者と十分に協議することで計画の実現へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に於いて、毎日の気付きや、ケアの実践・工夫された事を詳細に記録を行い、モニタリングを作成職員間で情報の共有を行い、随時 検討することで介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出・外泊・外食等の希望に添える様に支援しています。又趣味の継続が出来る様生け花・将棋・カラオケ・映画鑑賞等の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に於いて、委員の方より意見を頂き地域資源の把握に努めています。又地域のボランティアの方々により、音楽療法・ラクターヨガ・琴の演奏・コンサート・紙芝居・マジックショー等楽しむ事が出来ます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人・家族の意向・希望に沿うようにし、状況によっては、家族同席にて支援しています。又適切な医療の実施の為、不可欠な情報提供は文章により行い、家族等の報告をしています。又 担当医による緊急時の対応も可能な体制取っています。	医療機関状況報告書にバイタルと生活状況を書き、以前からのかかりつけ医につないでいる。自力で行けない入居者は協力医の往診が月1回ある。通院については有田市内であれば職員が対応し、市外の病院へは家族が付き添えるように送迎のみ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者がいつもと違う様子が見られた時は、直ちに事業所内の看護師に相談、確認事態によっては、Drとの相談を行っている。又看護師により日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中、一ヶ月間は居室を確保し持たせて頂く事で、本人及び家族が安心して治療できるように支援しています。又出来る限り病院側と情報の交流を行い相談を含め連携の相談員と交流を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や週末期に向けて、家族に説明を行い、事前指定書を文書にて同意を得ている。又随時段階ごとに確認をしながら、チームで支援に取り組んでいる。又本人の家族の希望あり、医療機関との連携により可能な場合は見取りを実施しています。	終末期の支援は医師の説明のうえで家族の意志を確認し、同意書を交わし、計画を行っている。グループホームで過ごす以外に家へ帰る選択肢も用意している。また、ホームに宿泊して看取りをする家族もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、マニュアル化し、研修会への参加や勉強会を実施することで、周知を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定した訓練を実施、マニュアルを行い職員が周知。外部講師による勉強会開催又飲料水・食料の準備を行い、更に、発電機や無電源のガス暖房機を備えています。避難場所の周知についても、廊下に経路図を指示・周知している。	日中と夜間の火災を想定した避難訓練を入居者も一緒に行い、県の防災の出前授業も入居者と一緒受講した。備蓄や、非常用持ち出し袋を用意して、津波については運営推進会議で話し合っている途中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、声掛けについても本人様の受け入れを基準とし、自己の存在が実感できる呼び名を用い、家族にも了承を得ています。個人情報については、鍵のかかる場所に保管、管理を徹底しています。	本人が受け取りやすい声掛けで、呼び名も家族公認のうえ、その人らしく生活が送れるような対応を心掛けている。入居者の話を聞いてあげるのではなく教えて頂くといった感謝の気持ちを大切にすることで、人としてその人を尊敬する様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の声に耳を傾け、日常生活の場面に於いて出来る限り、本人の想いや希望が反映出来る様に、又職員の判断ではなく、ご自分の気持ちを表せて頂ける様にお声掛け等を支援していました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の「自分らしい生き方・生活」の実現に向けた支援が出来る様に努めています。食事・入浴・外出等への支援についても本人の希望やその日の状態によって変更出来る様に心掛け、個々のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選ばれ、女性はお化粧をされ、お好みのアクセサリをつけられている方もいます。又行きつけの美容室に出かけられ、おしゃれを楽しまれている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に季節に合った献立を考える様に努め、個々に出来る事を行って頂きながら調理準備・盛り付け・片付けも一緒にして頂いています。身体状態に合った食事形態で対応でき体調により居室や居間でおしく食べて頂ける様支援しています。	赤飯作り、馴れ寿司作りなど季節の料理を作ったり、また、好きな物を食べる事を大切に、メニューは入居者と職員で考え、時には冷蔵庫の残り物も利用している。おやつは一緒に手作りしたり、外食する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量の記録を取り、一日を通じて確認出来る様にしています。定期的な血液検査等により確認又Drと相談の上栄養補助食品なども取り入れています。又乳製品・フルーツ・寒天・個々によっては、納豆など常備適宜食べて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、週3回の義歯洗浄を行い、歯ブラシについても個々に合った歯ブラシを選択、随時 施設内の歯科衛生士による口腔のアセスメント・相談を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様お一人お一人の今の持てる力に合わせて、支援を行い、その方に合った介助を支援しています。出来る限りおむつを使わず、トイレでの排泄が出来る様に心がけています。	最小限の支援で排泄ができる環境を整えるためにも、内部の仕切りはカーテンで行っている。職員の個々の誘導を全体で共有することができているため、プライバシーを損ねることなく職員の見守りで上手く行っている。便秘予防は食べ物で工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には、看護師と相談し、服薬の調整を行います。なるべく運動や食べ物で排泄が出る様に支援します。炊飯時に寒天を入れる・ヨーグルトにははちみつとキウイを入れるなど、食べ物に配慮し水分摂取・体操・腹部マッサージ等も併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様のこれまでの生活習慣や希望に沿って入浴を支援しています。楽しんで頂けるように季節湯の実施をしています。	浴槽内に簡易リフトが有る。日勤帯の中で入居者の希望に沿って入浴してもらっている。拒否があるなど声掛けが困難な方には、無理強いせず、タイミングや日程を変えるなどなるべく入って貰える様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて、居室や居間のソファに休まれるなど本人が安心して急速が取れるように支援しています。又自宅で使用されていた寝具を使用されている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・効果・副作用を記載した記録をファイルし、職員が常時確認出来る場所においている。服薬内容の変更については、業務連絡・引継ぎで確認を行い、記録に残している。薬剤師により個々に分包し、看護師がその日の投薬分を上げる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事から役割・楽しみを見つけて頂ける様に工夫しています。玄関の花入れ・調理・盛り付け・カフェの準備等手伝いや図書館に出かけたり、又 季節の梅干し作りやなれずし作り・夏野菜の栽培などを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出が出来る様に支援し、時には、日帰りでミニ旅行にも出かけたりにしています。家族や地域の方の協力を得ながら出かけています。	家族と入居者が全員で行く小旅行を年1回実施している。また、家族と旅行に行く入居者もいる。夏の間は外でカフェをしたり、また、恵比寿神社へお参りしたり、個別の外出も行っている。なお、入居者が外に出られる際には、地域の方が見守りしてもらえる関係づくりができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的に家族様や後見人が管理されますが、少額については、ご本人の希望や能力に応じてお金を所持して頂き買い物の際に支払って頂ける様に支援しています。管理については小遣い帳を作り、後日家族に確認をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、電話をして頂けるように支援しています。お友達・家族にお葉書や年賀状と一緒に書くなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、ソファや椅子を配置、季節の写真やお花を飾り、家庭的な雰囲気の中、思い思いに過ごして頂ける様工夫しています。又利用者様向けのお知らせについては目線に合わせるなどの配慮をしています。	廊下には椅子を置き、疲れたら座れるようにしている。壁には入居者が選んだ季節の花の写真を飾っており、また壁のカレンダーの日めくりは入居者がめくっているなど空間づくりは自主性を尊重している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間の中ではありますが、窓からの風景をきていただけるように、窓側にも机を配置、食卓以外にソファを置き・・リラックスして頂きながら・・思い思いに過ごして頂ける様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は内側から施錠が可能であり、利用者様がプライバシーを大切にしながら安心して過ごして頂ける様にしています。室内には、趣味の者を飾り居心地よく過ごしていただけるように支援しています。	家族の写真、人形、市からの祝いの赤座布団、衣装箱のクリアケース、服かけ、など入居者のなじみの物を自由に置いている。乾燥防止用の濡れタオルをベッドの手すりに置き、ドアの入口には手作りの表札をかける。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や居間・ローカなど導線には、物を置かず、自由に移動して頂ける様にしています。居間・トイレ等の位置がわかる様に手作りの表札や見取り図に利用者様の写真を添付しています。		